



# 全国建設 青年会議 第21回全国大会

平成28年12月2日(金)

明治記念館



## 目次

■ 大会趣旨 .....	1
■ 大会スケジュール .....	2
■ 講師紹介	
特別講演 「国土交通行政をめぐる最近の話題」 国土交通省 技監 森 昌文 氏 .....	3
基調講演	
第一部 「宇宙・人・夢をつなぐ」 宇宙飛行士 山崎 直子 氏 .....	4
第二部 「トヨタ自動車のものづくり、現場の人材育成」 トヨタ自動車株式会社 専務役員 河合 満 氏 .....	5
■ パネルディスカッション登壇者紹介	
コーディネーター	
ハタ コンサルタント株式会社 代表取締役 降旗 達生 氏 .....	6
パネリスト	
合同会社おもてなし創造カンパニー 代表 矢部 輝夫 氏 .....	7
国土交通省 大臣官房 技術審議官 五道 仁実 氏 .....	8
中部建設青年会議 副会長 田村 充宏 氏 .....	9
■ 全国建設青年会議の趣旨 .....	10
■ 全国建設青年会議リスタートへの決意 .....	11

---



# 魅力ある地域建設産業の未来創造

## —— 国土をつくる「人」をつくる ——

昨年の記念すべき第20回大会、「Construction4.0 ～社会を動かす産業へ～」を通じて、我々は新たな可能性を見出した。国土交通行政において推進されるi-Constructionに呼応して、先進的な工事運営や生産性向上の取り組みを学び、プロセス全体の最適化に向かって大きなスタートをきったのである。現在、ICT技術の活用・施工規格の標準化・施工時期の平準化等について官民総揚げで検討されている。しかしながら、はたして「その現場」は如何であろうか。そして「その未来」は見えているのか。

人口減少が加速して高齢化が進む中、地方から都市への若年層を中心とする担い手流出に歯止めがかからない。全産業同じ環境下、建設産業の人材離れ・超高齢化・入職者激減は深刻の度合いを越えている。経済的要因・諸政策・産業構造の変化によって建設投資は大きく失われたが、我々の産業の魅力までもが失われたわけではない。

先達の努力により、戦後の荒廃はすでに豊かな時代へと変遷した。しかし残念ながら列島は自然災害が多発する。温暖化による気候変動の影響で、風水害はますますその規模を大きくし頻発化している。巨大地震が懸念され、既存インフラ設備の老朽化も加速している。地域の安全・安心が脅かされる状況に対し、国も自治体も民間も様々な課題を抱えている。我々に課せられた使命、我々しかできない誇り高き役割がそこにあるのだ。相反し、その任を受けとめる仲間が少ない、或いは無くなるうとすら覚える危機にある。担い手三法が整った今、我々自らが若者や女性を惹き寄せなければ、そして今を共にする技術者をしっかりと育成しなければならない。

先般、「国土のグランドデザイン2050 ～対流促進型国土の形成～」が策定され、ドラスチックに変化する複雑な将来を切り開いていくための理念が力強く示された。大きなミッションを預かる我々は、そこにしっかりと備え、行動していく責任がある。日本と建設産業の更なる輝きと発展のために、国土をつくる「人」をつくり続けなければならない。

全国のメンバーとともに、魅力ある地域建設産業の未来創造に向かう第21回、リスタートの大会としたい。



# 全国大会スケジュール

## 全国建設青年会議 第21回全国大会

### 全国大会

13:00~17:50

- 13:00 開会  
主催者挨拶  
来賓挨拶  
来賓紹介および祝電披露  
大会趣旨説明
- 13:30 特別講演  
講師：国土交通省 技監 森 昌文 氏  
テーマ：「国土交通行政をめぐる最近の話題」
- 14:00 休憩
- 14:10 基調講演  
第一部  
講師：宇宙飛行士 山崎 直子 氏  
テーマ：「宇宙・人・夢をつなぐ」
- 15:15 第二部  
講師：トヨタ自動車株式会社 専務役員 河合 満 氏  
テーマ：「トヨタ自動車のものづくり、現場の人材育成」
- 16:15 休憩
- 16:25 パネルディスカッション  
テーマ：「国土をつくる『人』をつくる — 私たちにできること—」  
コーディネーター  
ハタ コンサルタント株式会社 代表取締役 降旗 達生 氏  
パネリスト  
合同会社おもてなし創造カンパニー 代表 矢部 輝夫 氏  
国土交通省 大臣官房 技術審議官 五道 仁実 氏  
中部建設青年会議 副会長 田村 充宏 氏
- 17:45 閉会挨拶「全国建設青年会議リスタートへの決意」

### 大懇親会

18:00~20:00

- 18:00 開会挨拶  
18:05 来賓挨拶  
18:20 来賓紹介・乾杯  
19:50 閉会挨拶



## 特別講演講師



もり まさ ふみ  
**森 昌文 氏**

**国土交通省 技監**

博士(工学)  
1959年生 奈良県出身

### 略 歴

- 1981年 東京大学工学部土木工学科卒業
- 1981年 建設省入省
- 1998年 アメリカ合衆国連邦運輸省道路庁
- 2000年 建設省土木研究所ITS研究室長
- 2001年 国土交通省九州地方整備局福岡国道工事事務所長
- 2008年 同 道路局企画課道路経済調査室長
- 2010年 同 道路局高速道路課長
- 2011年 同 道路局企画課長
- 2013年 同 大臣官房技術審議官
- 2014年 同 近畿地方整備局長
- 2015年 同 道路局長
- 2016年 同 技監

### 建設青年人へのメッセージ

建設産業に携わっている皆様におかれましては、日頃より社会資本の整備、メンテナンス、災害時における応急復旧対応を通じて、地域の守り手として日々奮闘していただいております。感謝しております。

激甚化する自然災害、老朽化への対応、あるいは生産年齢人口の減少など社会資本の整備、維持管理、これらを支えて頂いている建設産業を巡る現下の課題は極めて厳しく、待ったなしの状況にあります。

これらを踏まえ、国土交通省としては担い手三法の改正を受けた運用指針に基づく様々な施策を進めるとともに、今年を生産性革命元年と位置付け、i-Constructionを含め、生産性向上の取り組みを進めているところです。

これらの取り組みに加え、次代を担う若手の育成・人づくりに向けて、週休二日の拡大などの働き方改革を進め、魅力ある建設産業に発展するよう、現場の声をしっかりお聞きして進めていきたいので、皆様のご協力をよろしくお願い致します。



やまざき なおこ  
**山崎 直子 氏**

### 宇宙飛行士、内閣府宇宙政策委員会委員

立命館大学および女子美術大学客員教授  
1970年生 千葉県出身

#### 略 歴

- 1996年 東京大学大学院航空宇宙工学専攻 修士課程修了
  - 1996年 宇宙開発事業団(現JAXA)入社
  - 1999年 国際宇宙ステーション(ISS)宇宙飛行士候補者に選定、2001年認定
  - 2006年 スペースシャトル搭乗運用技術者の資格取得
  - 2010年 スペースシャトル・ディスカバリー号で宇宙へ(ISS組立補給ミッション従事)
  - 2011年 JAXA退職、現在に至る
- 日本宇宙少年団(YAC)アドバイザー、松戸市民会館名誉館長、  
ふたばの教育復興応援団などを務める  
著書に「宇宙飛行士になる勉強法(中央公論新社)」  
「夢をつなぐ(角川書店)」「瑠璃色の星(世界文化社)」など

#### 建設青年へのメッセージ

全国建設青年会議の皆様が、日頃私たちの社会基盤を支えてくださっていることに敬意と感謝を申し上げます。第21回全国大会のテーマである「国土をつくる「人」をつくる」。これは、宇宙でも正に大切なことです。一つ一つのハードウェアをつくっているのは「人」であり、そのための人材育成が欠かせません。

そして、複合的な知見が必要とされている点も同じだと感じております。私は2010年に国際宇宙ステーション(ISS)の補給・組立ミッションに従事しましたが、ISSは現場で宇宙飛行士が作業するとともに、地上からも遠隔操作を行う「スマートハウス」です。また、環境、資源、エネルギーのバランスに絶えず配慮をする必要があります。環境と人と技術との連携が大切であることは、地上でも宇宙でも共通すると思います。

これからは、宇宙ホテルなどの大型施設の建設も進むかもしれません。是非、皆様からご指導いただきながら、新しい宇宙時代を切り拓いていければと思います。



かわい みつる  
**河合 満 氏**

トヨタ自動車株式会社 専務役員

1948年生 愛知県出身

### 略 歴

- |       |                                       |
|-------|---------------------------------------|
| 1966年 | トヨタ工業学園高等部卒業                          |
| 1966年 | トヨタ自動車工業株式会社入社                        |
| 1982年 | トヨタ自動車株式会社へ社名変更                       |
| 2005年 | 同 社 本社工場鍛造部主査                         |
| 2005年 | 同 社 本社工場鍛造部部长                         |
| 2008年 | 同 社 本社工場副工場長                          |
| 2013年 | 同 社 技監就任                              |
| 2015年 | 同 社 専務役員就任、現在に至る                      |
| 2015年 | 同 社 ユニットセンター Executive Vice President |
| 2015年 | 同 社 車両系生産技術・製造本部副本部長                  |
| 2016年 | 同 社 工場統括、現在に至る                        |

### 建設青年人へのメッセージ

日本の「ものづくり」。

それを支えるのは、現場で働く方々だと思います。

私は、長年、自動車の製造現場に携わってきましたので、建設業界の現場には詳しくありません。

ただし、業界は違えど現場で働く方々の人材育成が重要な課題の一つである事は間違いないと思います。

建設も自動車も大きな意味では同じ「ものづくり」ですので、技能・技術を伝承し、それを後進に伝える優れた人材を育成する事が大変重要な事であるのは同様だと思います。

今回、皆さんの前でお話しする機会をいただき、弊社の製造現場での人材育成をご紹介します事が、少しでもお役に立てれば光栄です。



ふる はた たつ お  
**降簾 達生 氏**

**ハタ コンサルタント株式会社 代表取締役**

NPO 法人建設経営者倶楽部 KKC 理事長  
1961 年生 兵庫県出身

**略 歴**

- 1983年 大阪大学工学部土木工学科卒業
- 1983年 株式会社熊谷組入社 (映画「黒部の太陽」に憧れて)
- 1995年 株式会社熊谷組退社 (1995年阪神淡路大震災にて被災をきっかけにして)
- 1998年 ハタ コンサルタント株式会社設立 代表取締役に就任
- 2005年 NPO 法人建設経営者倶楽部 KKC 設立 理事長に就任

実 績▶建設技術者研修5万人、現場指導2000件  
メールマガジン「がんばれ建設～建設業績アップの秘訣～」読者数14,000人  
現在の委員▶国土交通省「地域建設産業生産性向上ベストプラクティス等研究会」、  
「キャリアパスモデル見える化検討会」、  
「建設業イメージアップ戦略実践プロジェクトチーム」

**建設青年人へのメッセージ**

未来を切り拓く建設青年人のなすべきことは2つあると私は考えています。

1つ目は、いい会社を作る。まずは社員さんから、「自分の家族や親戚や仲間を入社させたい」と言われる会社を作ること、そしてお客様からは「あなたの会社なしでは考えられない」と言われるような会社を作ることが大切です。そのためには常に新しいことにチャレンジすることや人が育つ会社にすることが欠かせません。

2つ目は、良いことも改善すべきことも含めて、広く一般の方々に建設業のことを伝える。スポーツ選手や看護師さんになりたい若者が多いのは、その仕事ぶりが「見える」からです。学校、町内会、管理組合にて、さらには同級生、友人、知人に建設業の仕事ぶり、すばらしさを伝えることで、建設業が「見える」ようになり、正しく理解してもらうことができます。これは地域に根ざして活動している建設会社にしかできないことだと思います。

これら2つのことを実践していくことで、働く人にとっては誇りを持って、そして世間の人にとっては魅力ある建設業界であり続けることができます。

ぜひ一緒に誇りと魅力に満ちた建設業界を作り上げましょう。





や べ て る お  
**矢部 輝夫 氏**

**合同会社おもてなし創造カンパニー 代表**

元 JR東日本テクノハート TESSEI おもてなし創造部顧問  
1947 年生 宮崎県出身

### 略 歴

- 1966年 日本国有鉄道入社、JR東日本を通じて40年間鉄道人として従事。  
その間、安全対策部課長代理、輸送課長、立川駅長、運輸部長、指令部長
- 2005年 鉄道整備株式会社（現 JR東日本テクノハート TESSEI）取締役経営企画部長
- 2011年 専務取締役
- 2013年 おもてなし創造部長（嘱託）
- 2015年 合同会社「おもてなし創造カンパニー」を設立し代表

### 建設青年人へのメッセージ

「あそこの〇〇は、いい職人になったバイ」。九州で私がまだ幼い頃に母の言った言葉である。そこには「職人」が尊ばれる時代があった。今はどうだろう。技術革新が進む中で「職人」なんて過去の遺物？ スカイツリーは「職人」の力を借りずに作った？ 宇宙産業を支えているのは誰？ どっこい、現代にあっても「職人」は日本のモノづくりの中心なのだ。

「職人」は頑固だ。だが、その頑固さは「もっともっと素晴らしいモノを創りあげる」という真摯さ、熱意のなせる業ではないのだろうか。長く鉄道に働く中で多くの土木・建設技術者の知己を得た。彼らは「あのトンネルは俺が掘ったんだ」「〇〇鉄橋が俺の自慢だ」「あのビルいいだろう」という。なんて素晴らしい職業なんだろう。

新幹線お掃除のオバチャンたちも「職人」である。例にもれず頑固だ。でも3Kの本家みみたいな仕事を「新幹線劇場」と呼び、「どんな仕事でも人生でも、誇りと生きがいをもった瞬間から幕が開く」のだと考えている。仕事を楽しんでいる。それが世界に注目される原動力ともなっている。

「建設」は私たちの社会を、日本を、世界を創りあげ、その成果を後世に伝える。そうした素晴らしい仕事をどう受け止めていくか。それはあなたの「心」の中にある。肝に銘じてほしい。



ご とう ひと み  
**五道 仁実 氏**

国土交通省 大臣官房 技術審議官

1961年生 静岡県出身

### 略 歴

- 1986年 京都大学大学院工学研究科 修了
- 1986年 建設省入省
- 1999年 建設省中国地方建設局出雲工事事務所長
- 2012年 国土交通省水管理・国土保全局海岸室長
- 2014年 同 関東地方整備局企画部長
- 2015年 同 大臣官房技術調査課長
- 2016年 同 大臣官房技術審議官

### 建設青年人へのメッセージ

平素より国土交通省や地方公共団体が進める社会資本の整備、維持管理・更新を支えて頂き、また、災害発生時には真っ先に現場に駆けつけ、地域の安全・安心を確保して頂き、感謝申し上げます。

今年は、担い手三法の運用から二年目で、地方自治体への周知や支援により、成果が各地域で現れつつあります。一方で、生産年齢人口の減少が進む中、建設産業においてもその担い手の確保と体制整備が必要で、官民共通の喫緊の課題です。建設産業の担い手を育てる、「人づくり」のためには、「きつい、きたない、危険」の3Kからの脱却が必要です。国土交通省ではi-Constructionの推進を通じて、「給与、休暇、希望」が持てる新3Kに向けて取り組んでおります。

品確法運用指針やi-Constructionに係る取り組みは、まだまだ不十分なところがあります。現場で日々ご苦労されている皆様のご意見をお聴きし、更に前へ進めていきたいと考えておりますので、力を結集して取り組んでいきましょう。



た むら みつ ひろ  
**田村 充宏 氏**

**中部建設青年会議 副会長**

株式会社田村組 代表取締役社長  
1971年生 三重県出身

### 略 歴

- 1993年 横浜国立大学 経済学部 卒業
- 1993年 大日本土木株式会社 入社
- 1997年 株式会社田村組 入社
- 2004年 代表取締役社長に就任

### メッセージ

現在私たち建設青年人を取り巻く課題には、様々な物があります。それらに対応していく為、我々は前を向いて一歩ずつ進んでいかななくてはなりません、その中でキーワードとなってくるのは、今大会のテーマにある「人」ではないでしょうか。

今回パネリストという大役を仰せつかりましたが、あくまでも私個人の意見ではなく、地域の安全・安心、社会資本整備を誇りを持って担っている皆様方建設青年人を代表した発言ができればと考えております。パネルディスカッションが、御参集いただいた皆様方それぞれの夢へ近づくための一助となれば幸いです。



全国建設青年会議は、地域の建設産業を取り巻く  
中長期的な課題を解決するため、発注機関と連携  
しながら、建設青年人ならではの行動力を活かした  
主体的な取り組みを実施・継続することにより、  
地域と国土を守り、社会の繁栄に貢献する。

平成27年12月

### 設立経緯

平成9年12月、建設省（現 国土交通省）の各地方建設局（現 地方整備局）を単位ブロックとして、青年経営者の連合組織として発足しました。全国規模の交流の場として、「建設青年懇談会・全国交流会」の名称でスタートし、平成12年9月に現在の「全国建設青年会議」と名称変更しました。

### 設立時の趣意書

我が国の住宅・社会資本の整備水準は、欧米諸国と比較して未だ立ち後れており、豊かさが実感できる安全でゆとりと潤いのある生活を実現するためには、人口構成比が少しでも若く、貯蓄率が高いうちに積極的に整備を推進することが必要である。

また、我が国は水害、土砂災害、震災等に対して、厳しい自然条件、社会条件があり、それぞれを克服し、安全で安心できる国民生活の実現が求められている。

さらに、我が国は国際化・産業の空洞化が進むなかで、経済構造改革に必要な住宅・社会資本整備の推進、高コスト構造の是正、国際的に魅力ある事業環境の創出を図ることが重要な課題となっている。

このような状況のもとで、これら社会資本整備の担い手である建設業の果たす役割は大きいものがある。しかし、建設業界を取りまく環境は、かつてないほどの厳しいものになっており、長引く不況、巨額債務、公共工事の削減、また、建設業界の不祥事など多様かつ多くの課題を抱えている。

そこで、建設事業の抱える課題を一緒に考え、21世紀に向けての建設事業の発展に寄与し、地域の活性化を図るために、我々全国の建設業の経営に参画する青年たちは、ここに「建設青年懇談会全国交流会（仮称）」を設立しようとするものである。

平成9年12月

## 全国建設青年会議 リスタートへの決意

我々、地域建設産業の未来創造に立ちはだかる大きな課題は、まぎれもなく「人」である。本大会はその活路を見出すべく、これからの国土交通行政、最先端を走る宇宙産業と世界をリードする自動車産業の「ものづくり・人づくり」を学び、課題解決のためにパネルディスカッションを行った。

そこで我々の産業の魅力とは何かを今一度考えた。国土をつくる高い技術に触れる喜び、人に役立つ壮大なものづくりに携わる嬉しさ、防災のみならず災害時にも寄与できる誇り高さ役割等、あらためて数多くを共有し、その魅力を実感しながら、さらに我々が目指すべきものは何かを自らに問いかけた。

はたして我々は、経営者として「夢」をもち得ているのだろうか。それを今の仲間、これからの仲間にも、しっかりと語っているのだろうか。そして地域や建設産業に関わる多くの人々を、幸せにできているのだろうか。我々は国土づくりの実践者として未来に希望の光を当て、その実現に向かって関わる全ての者を引っ張っていくリーダーたらねばならない。

『国土をつくる「人」をつくる』ために、地域建設産業の原点を見つめ直すとともに、確かな将来像を描いて発信し、大切な仲間と共に現場に立ち、見て、聞いて、感じたことの一つ一つを丁寧・愚直に改善していく。また、既成概念にとらわれることなく、社会の変化やニーズを敏感に読み取り、新しいことにも勇気をもって取り組んでいく。この我々の姿勢こそが、地域建設産業の魅力を一層高め、新たな仲間を呼び込む、理想と幸福に向かう一步一步の原動力であることを確信した。

結びにあたり、魅力ある地域建設産業の未来を創造するために、全国建設青年会議の一人ひとりが、次の三点の決意をもって、第21回、リスタートの大会として締めくくりたい。

- 一、 私は、建設青年経営者として「夢」をもち、自信をもって発信する。
- 一、 私は、その夢を成し遂げるために、常に勇気をもって「挑戦」する。
- 一、 私は、国土づくりに関わる、全ての人の「幸福」を実現する。

以上

主幹

# 中部建設青年会議

全国建設青年会議 [全国9ブロック]

北海道建青会  
東北建設業青年会  
関東建設青年会議  
中部建設青年会議  
北陸建設青年会議  
近畿建設青年会議  
中国地方建設青年交流会  
四国建設青年会議  
九州建設青年会議